

ホタル特集



ホタルは古くから人間と共生し、淡い光で見るものの心を癒し、愛されてきた生き物です。そのホタルも人間の生活が便利になるにつれ、どんどんその姿を消していきました。

ホタルをはじめ、見掛ける姿が減っている生き物は、環境の変化に敏感です。さまざまな生き物が重なり合うことで自然環境は維持されています。豊かな自然環境に生息するホタルは、「環境のバロメーター」といえます。

阿久比町では昭和五十八年から「ホタル飛びかう住みよい環境づくり」を目指し、町内に生息している

毎年ホタルと出会えるために

初夏の訪れを告げるかのように淡い光を放ちながら飛ぶホタル。今年も美しい光の舞いをご覧になりませんか。



ふれあいの森「ほたる観察会」

ヘイケボタルの発生状況や生態などの調査研究を行っています。今年もヘイケボタルの生息分布調査を、六月の下旬から小中学生をはじめ多くの皆さんの協力を得て行いました。六月二十二日と二十三日には、ふれあいの森ホタル養殖場を夜間開放して「ほたる観察会」を開きました。二日間約二千二百の方が訪れ、専門員が説明する中、淡い光を放ちながら美しく乱舞するホタルに見入っていました。また、六月二十六日に



東部小学校「ホタル成虫観察会」

東部小学校で行われた「ホタル成虫観察会」には、約七百人の来場者がありました。さらに、ふれあいの森体育室では六月九日から二十四日までの期間に「ほたるポスター作品展」を行いました。ホタル保護を啓発するポスターを、小中学校の児童・生徒から募集し、その中から選ばれた優秀作品百十五点を展示しました。(四・五ページに最優秀作品一点と優秀作品十点を紹介)



ほたるポスター作品展

ホタルだけでなく生き物全般に伝えることですが、多様性を保全するためには、普段からの行動が大切です。ゴミのポイ捨てをしない、川を汚さないなど・・・小さなことで、一人一人が続けていけばホタルを守り、自然環境を守ることにつながります。

ホタルが減少する一方で、ホタルが飛び交う情景に対する人々の思いは、強くなってきているようです。ホタルを一度見てみたいという問い合わせが、今年も多く寄せられました。これからも、町全体で保護活動に取り組み、幻想的なホタルの光を後世に残していきたいと思えます。